


## 感染疑い例を探知したら感染対策を開始しましょう！ 施設内感染対策のポイント

1	発生状況の確認と連絡	<input type="checkbox"/> 職員、入所者等の感染者 / 有症状者数の把握とリスト作成
		<input type="checkbox"/> 職員間での情報共有と家族・嘱託医への報告
		<input type="checkbox"/> 介護事業所、関係機関との情報共有
2	感染者と入所者の体調管理	<input type="checkbox"/> 体調不良者・症状悪化者の医師への相談
3	関係部署への発生報告 ～施設内1名の発生から	<input type="checkbox"/> 市町村主管課への報告
		<input type="checkbox"/> 保健所への報告とホームページ(下欄のQRコード)確認
4	治療に向けた調整	<input type="checkbox"/> 感染者の施設内治療について医師に相談
5	抗原キット・集団PCRの活用	<input type="checkbox"/> 嘱託医へ相談し検査を検討する
6	PPE(感染防護具)の適切な使用	<input type="checkbox"/> エアロゾル発生ケアには、N95マスク・フェイスシールド <sup>®</sup> を装着
		 <p style="text-align: center;">口腔ケア      食事介助      吸引      マスク未着 大声を出す など</p>
不要な感染対策と対応		<input type="checkbox"/> N95マスク    サージカルとの二重使い、マスク表面のアルコール消毒と再利用 <input type="checkbox"/> 二重手袋 <input type="checkbox"/> 次亜塩素酸水による消毒 <input type="checkbox"/> 頻回な手すりなどの消毒 ➡ 手洗い・手指消毒 <input type="checkbox"/> 足ふきマットや足カバー・ヘアキャップ <input type="checkbox"/> 感染者の陰性確認のための検査 など

<参考> ゾーニングについて ～感染疑い例をいち早く把握し、感染対策を開始できる場合には有効です

- 集団の場から離す～個室へ移動
- 空間的に分ける ～陽性者多数は同室管理
- ゾーニングが効果的なタイミングでは「区間分け」を検討する
- \* 接触状況や検査結果を確認し、入所者の部屋の移動を検討する
- \* PCR検査陰性でも、数日後に発症する場合を考慮する

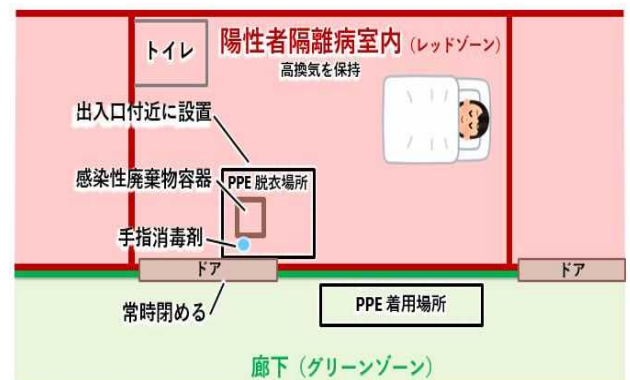
ゾーニングで感染者と非感染者を分けて感染対策ができる。\*感染者が少数で居室内にとどまれる場合など

- レッド：ウイルスが多い区画      \*使用済PPEを脱ぐ場所はレッド、着用は汚染されていない個室入口付近
- グリーン：ウイルスがない区間

★職員の交流は可能な限り中止。感染者と非感染者の担当は固定。困難時は、入所者ごとの手指衛生・個人防護具の着脱で対応



★感染者が居室内だけで療養困難な場合  
➡フロア全体をレッドゾーンとします



出典：東北大学大学院医学系研究科総合感染症学分野



介護職員のための感染対策マニュアル



筑西保健所ホームページ 新型コロナウイルス感染症